

故障の可能性及び前兆について

サージトロン FFPF 本体の点検と不具合について

故障と認識される以前の本体の不具合は見落とされがちです。本体の不具合は故障や事故の原因となります。また、周辺機器に影響する場合があります。電源が入って使用できる場合であっても、出力系統に不具合が発生している事例もあります。日常点検で不具合によるトラブルを未然に防いで、安全にご使用ください。

- ・電源ランプや通電ランプが暗くなっている。……………→ 出力系部品の不良の場合
- ・通電中に出力が弱くなったり、出力しなくなる。……………→ 出力系部品の消耗・劣化がある場合
- ・通電したりしなかったりする。……………→ 出力系部品や対極板やケーブル類の断線
- ・切開力が弱いと感じて出力を5以上に上げている。……………→ 出力系部品や対極板やケーブル類の不良
- ・凝固力が弱いと感じて出力を5以上に上げている。……………→ 出力系部品や対極板やケーブル類の不良
- ・モードスイッチや出力ダイヤルに不具合がある。……………→ 内部ロータリースイッチ系の不良
- ・対極板やハンドピースの差込口に不具合がある。……………→ 汚れや劣化がある場合

対極板の使用前・使用後の安全確認について

古くなって傷や変形のある対極板をそのまま使用しないでください。サージトロンの対極板は患者様の衣服の上から使用できるため製品品質維持に対する認識が希薄になりがちです。対極板の不具合は高周波ラジオ波の集中性に影響します。製品損傷や使用方法が不適切だった場合、電気メスと同様に（対極板の装着面以外の部位で）熱傷を起こす可能性があります。したがって、使用時に対極板の形状やコーティングの状態、破損などを確認するとともに、コネクタ部のゆりみやぐらつきを確認してください。また、コードの断線などもチェックして分流などによるリスクに注意が必要です。

- ・対極板が変形したり、絶縁コーティングがういている。……………→ 熱傷の危険性
- ・表面の絶縁コーティングに傷や剥がれがある。……………→ 熱傷の危険性
- ・対極板側のコネクタ部にゆりみやぐらつきがある。……………→ 熱傷や分流の危険性
- ・対極板のケーブルが動くに通電状態が不安定になる。……………→ 熱傷や分流の危険性
- ・対極板のケーブル接続コネクタ（緑色の部分）の金属部分が本体の差込口からはみ出している。
……………→ コネクタの金属部分に触れた場合の感電・熱傷の危険性

ハンドピースやバイポーラコードの使用前・使用後の安全確認について

ハンドピースやバイポーラコードなどケーブル類は、再使用品のため滅菌による消耗、劣化が生じます。コードの亀裂や剥がれ、コネクタ部の破損、電極の挿入固定状態を確認してください。